

広報

わかた

Public-relations Wakasa

12

2011
No.80

Contents

- 特集「若女将インターン生の挑戦」・・・2
- まちの話題・・・6
- 町長随筆、クイズ・・・12
- 3歳で～す、文芸・・・13
- 情報BOX・・・14
- すまいる・・・17
- 町からのお知らせ・・・18
- シリーズ「住人十色」・・・20
- 暮らしのカレンダー・・・22

「ぼくの柿も採ってね」

（明倫保育所の柿もぎ（相田））

若女将インターンの 挑戦

写真：第1回心のふるさと若狭町の四季フォトコンテスト入賞作品



若狭町では、8月中旬にNPO法人ふるさと回帰支援センター（東京都）の「農村の6次産業起業人材育成事業」を活用し、町内の民宿で「若女将インターン」を行いました。

この事業に応募した5人の県外学生が、民宿の仕事を通じて、漁業や観光業のつながりを学び、民宿が抱える課題解決に挑戦しました。

※インターン … インターンシップの略称で、学生が将来のキャリアや夢を実現するために、就職・就業前の一定期間、実際の企業で働くことです。関心のある分野で一定の期間働くことによって、その分野に対する関心をより強めたり、理解を深めようとする制度です。若狭町では、かみなか農楽舎などで農業に関するインターンシップを行っています。

福井県および若狭町における観光統計の推移

(出典：福井県産業労働部観光振興課による福井県観光入込数資料)

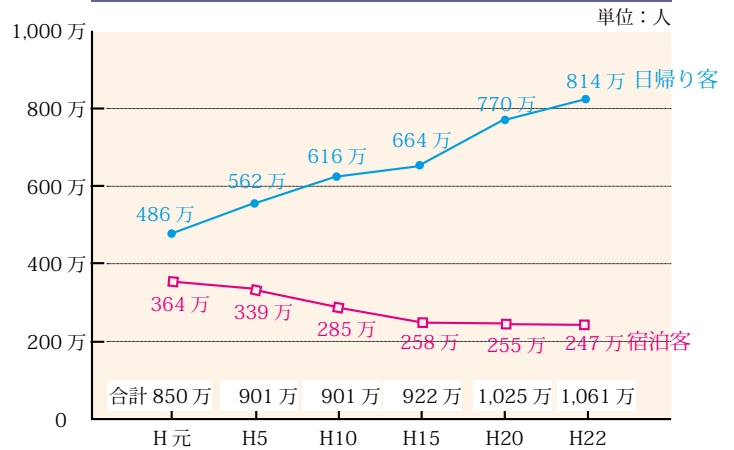
県内の観光入り込み数は、平成 22 年で 1,061 万人で、平成元年から比べると 200 万人以上増加しています。

若狭町においても、平成 22 年は 135 万人の観光客の入り込みがありました。

統計の数値は推計であり、確実な数値ではありませんが、県全体の入り込み数が増えているのに、その実感ありません。

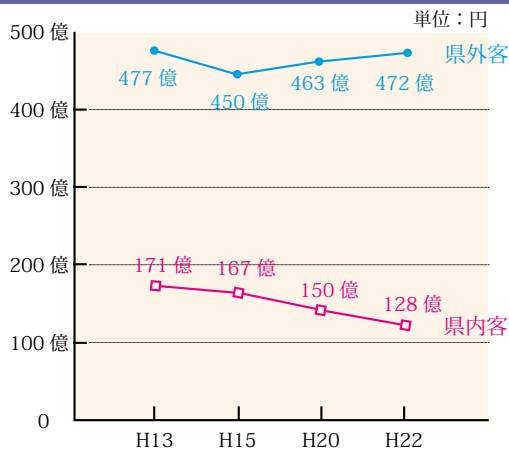
5 人の若女将インターン生が、実際に民宿で働き、現場の課題などを洗い出して、レポートや提言としてまとめたものを一部紹介します。

県内の観光客入り込み数（実人数）



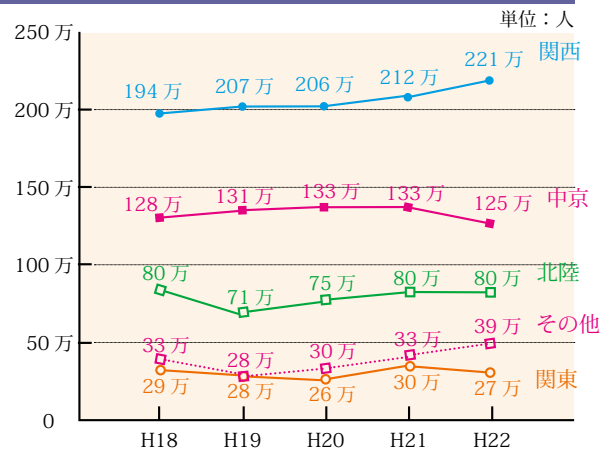
合計では増加していますが、増えているのは日帰り客で、宿泊客の入り込み数が減ってきています。

県内の観光消費額合計（宿泊者対象）



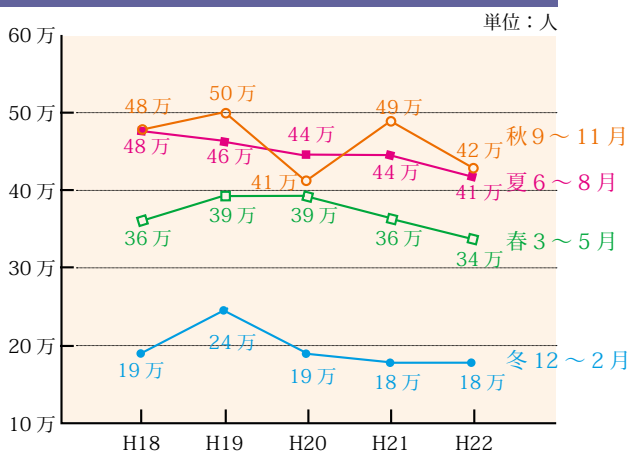
県内客の減少に伴い県内客の観光消費額が減少していますが、県外客の観光消費額にそれほど変動はありません。

県外客の発地別入り込み数（実人数）



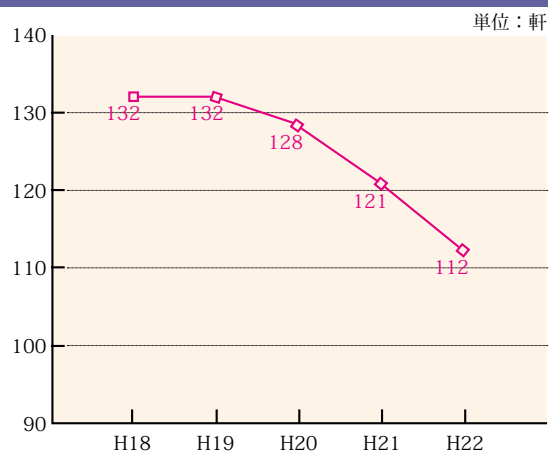
関西と中京方面からの入り込み数が大部分を占めています。関東方面は、距離の関係か低い数値となっています。

若狭町のシーズン別入り込み数（延べ人数）



若狭町への入り込み数をシーズン別に見ると、夏や秋にかけての観光客が多いようですが、全体的に伸び悩んでいるようです。

若狭町のホテル・旅館・民宿の数



町内の宿泊施設は、ここ数年で 20 軒の減少となっています。

インターンを通じて感じた若狭町の魅力

「おかえりなさい」

池崎 瞳さん

の言葉を求めている

「日本海は美しい」、最初来た時にそう感じました。“日本海”と言うと、どうしても荒々しいといったイメージでしたが、若狭町に来て、海の透明度にびっくりしました。太平洋側でしか泳いだことない人は、ぜひ日本海で泳いで欲しいです。これは知られていない事実だと思います。

ただ、交通が不便ですね。でも、リピーターのお客さんに話を聞くと、わざわざここに来るのは、女将さんの「おかえりなさい」の言葉を求めているからだそうです。



氏 名：池崎 瞳
(Ikezaki Hitomi)
所 属：東洋大学
国際地域学部 3 年
出身地：千葉県柏市

ここに来るお客さんは

小林 知代さん

「この人」を求めている

若狭町の民宿の魅力は、「かしこまらないおもてなし」ですね。お客さんのニーズに柔軟に、かつ特別なことではなく当たり前のように対応しています。

ここに来るお客さんは、「この宿のこの人」を求めている。同じ部屋で、同じ料理でも“宿の人”が変わったら意味が無い。「来年もまた来るで」の言葉には、都会にはない、人と人とのつながりを感じます。

若狭町は、“癒し”という言葉ではなく、“明るく、元気な人に活力をもらう”といったイメージを感じました。



氏 名：小林 知代
(Kobayashi Tomoyo)
所 属：立命館大学
政策科学部 3 年
出身地：青森県弘前市

人が、民宿が

小林 百絵さん

「ホスピタリティ」

体調不良により滞在が短くなってしまい、インターン先や関係者の方々にご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。わずかな期間でしたが数多くのことを学ばさせていただきました。

民宿のあり方は、家族のように温かい接客で、掃除から出迎え、食事やお客さんとの何気ない会話など、お客さんに対する気配りや、優しさ、愛を感じました。

お客さんが帰るのを惜しむように女将さんと会話する様子は、それは帰省する祖父母の家のようなものでした。これは、ホテルなどのサービスとは大きく違う、本当の意味での「ホスピタリティ」であると感じました。



氏 名：小林 百絵
(Kobayashi Moe)
所 属：慶應義塾大学
環境情報学部 2 年
出身地：北海道帯広市

ゆったりとした時間にある 宇田川 奈央さん 「精神的な豊かさ」

小さいころから東京で育ったため、田舎に憧れを抱いていました。インターン先の女将さんは「地域の人とはみな家族同然、自分の子もよその子も一緒や」と、温かい人柄やゆったりとした時間が流れる心の交流にふれることができました。

都市部には、経済的な豊かさはあるでしょうが、精神的豊かさは田舎のほうが勝ると感じました。

また、若狭町には素晴らしい特産物や文化など“強み”がたくさんありますので、足を運ばせる方法や魅力を伝えることが必要です。



氏 名：宇田川 奈央
(Udagawa Nao)

所 属：駒澤大学
GMS学部4年

出身地：東京都東村山市

地域を魅せる「人」 高田 茉希さん 地域の光を探す「人」

お客さんへの接し方がホテルと違いますね。ホテルでは、お客さんと接するのがチェックイン・アウトぐらいですが、民宿ではお客さんとの関わりがとても深く大切なものだと思いました。

特に、女将さんが出来る限りお客さんの要望に応えようとしていたところに、民宿らしさというか、ひとの温かさを感じました。

「観光」は「光を観る」と言われていますが、観るのも、魅せるのも人であり、もっと言えば地域の光を探すのも人です。料理の説明など何気ないお客さんとの会話からも、若狭町を魅せることが出来ると感じました。



氏 名：高田 茉希
(Takada Maki)

所 属：東洋大学
国際地域学部4年
出身地：埼玉県深谷市

インターン生からの提言

①インターネットをもっと活用して、魅力を伝えよう

料理のイメージ写真をもっとホームページなどに掲載する必要があります。宿によって、豪快な料理や繊細な料理など魅力の違いがありますが、現時点では、ほとんどの宿のホームページではそれがわからず、若狭町の良さや魅力が伝わっていません。リピーターの理由の1つである「宿のご主人や女将の魅力」をしっかりと伝えてください。Twitter（ツイッター）やブログを使って、タイムリーな情報発信も必要です。

②「理想の夏休み」を演出しよう

眼前にある海などの自然、そしてアットホームなもてなしのある若狭町は、田舎に親戚を持たない都市部の人間にとって「理想的な夏休み」を過ごせる場所です。そのイメージをもっとPRすると良いです。

③インターンを利用して若狭町を知ってもらおう

今回の若女将インターンなどを継続し、外部の声を聞くことはマイナスではありません。わたしたちの意見は「そんなの当たり前のことだ」と思う人もいるでしょうが、「そうだ」と改めて納得する良い機会でもあります。それに、若狭町にどっぷりと入り込んだインターン生などから口コミで広げる効果があり、また、わたしたちも「ただいま」と若狭町の民宿に帰ることができます。

まちな話題

※広報紙に「あなた」の写真が写って
いましたらご連絡ください。
写真をさしあげます。
(企画情報課 TEL45-9110)



◀「鰹節の香りが
する」と、出汁
を味わう園児ら



▶サツマイモの
皮をむく園児ら



親子で食育教室 (10/13)

親子食育教室が、中央保育所で行われました。
この日は、青池調理師専門学校青池睦子理事長を講師に迎え、かりん組の親子 18 組と、いきいき広場で保育所を訪れていた親子約 10 組が、鰹節と昆布からとった出汁を味わいました。
その後、保育所の畑で採れたサツマイモを使ったオレンジ煮をかりん組の親子で作りました。
青池理事長は、「食品には様々な栄養分が含まれているが、その栄養分を体に吸収できなければ意味がない。その食品の栄養分を吸収できるように、ちゃんと調理をすることが大切」と、家庭で調理することの大切さを話していました。



日頃からありがとう (10/14)

三方小学校で、見守り隊や保護者の方への感謝の気持ちを伝える「感謝のつどい」と、年間を通じて児童が取り組んでいる「総合学習中間発表会」が行われました。

1 年生と 2 年生の児童が、ダンスやゲームで参加者と交流し、「いつもありがとう」と感謝の気持ちを伝え、3 年生から 6 年生の児童が、田んぼの生き物や町の産業など、各学年の総合学習で取り組んでいることについて発表しました。

参加した見守り隊や保護者の方は、児童が作ったおにぎりや梅干しを満足そうに食べながら、児童の成長を喜んでいました。



◀手作りのおにぎり
りを準備する児
童ら



▶児童とゲームを
親しむ参加者



◀熊川宿の取り組み
について講演する
清永さん



▶ 15 周年を記念し、
てっせん踊りを披
露する区民ら



伝統を守るまちづくり (10/16)

熊川宿が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されてから 15 年を迎え、それを記念した「まちづくりフォーラム」が、熊川宿の逸見高周家で行われました。

フォーラムでは、同宿のまちづくりの歩みを振り返る記念講演などがあり、参加した地元住民らは、伝統的な町並みを守っていく気持ちを新たにしました。

また、文化庁で熊川宿の担当をされている文化財調査官の清永洋平さんは、「住民が主体でまちづくりが行われており、全国的にも良い事例」と、熊川宿の取り組みを評価していました。



◀熱戦を繰り広げる選手たち



▲開会式で整列する選手たち



温泉杯の試合は熱い (10/15 ~ 16)

みかた温泉杯争奪若狭学童野球交流大会が、三方グラウンドなど4会場で行われました。

大会には、県内外から16チーム約400人が参加し、若狭町からは三方レイカーズと上中JBCの2チームが参加しました。

15日はあいにくの雨模様で試合は行われませんが、各チームから試合に向けた抱負が語られたり、O×クイズや記念撮影など選手同士の交流会が行われました。

その後、参加者らは宿泊先となる町内民宿で、翌日の試合に向けて英気を養いました。

翌日には各会場で熱戦が繰り広げられ、各試合のMVP選手に特産の福井梅が贈呈されました。



ソフトボールで交流 (10/16)

第3回わかさ東商工会上中地区ソフトボール大会が、かみなか農村運動公園など2会場で行われました。

大会には、上中地区の商工会会員や企業から13チーム約200人が参加し、各試合で熱戦を繰り広げました。

決勝では、上中建築組合と日本電気硝子株式会社がどちらとも一歩も譲らず、7対7の引き分けとなりましたが、大会ルールにより上中建築組合が栄冠を手に入れました。

参加した選手らは、秋晴れの中、白球を夢中で追いかけて、スポーツの秋にふさわしいさわやかな汗を流していました。



◀熱戦を繰り広げる選手たち



▲雨森地区会長からトロフィーを受け取る優勝チーム



◀木下支局長から伝達を受ける森井さん(写真左)



▲任期中の思い出などを森下町長らと談話する森井さん(写真左)



人にやさしく、人の気持ちに (10/18)

人権擁護委員を務めていた森井信昭さん(倉見)が、法務大臣から感謝状を贈呈されました。

森井さんは、人権擁護委員を2期6年務め、今年10月1日で退任されましたが、任期中には、人権相談などで様々な相談を聞き、相談者へアドバイスをされてきました。

この日、森井さんは若狭町役場で、感謝状を福井地方法務局敦賀支局の木下支局長から伝達されました。

森井さんは、「無事に任期が終わって正直ホッとしている。相談を受けるときは、人に優しくすること、人の気持ちになることを心がけていた」と話していました。



◀グラウンドゴルフを楽しむ参加者ら

▶輪に向けてフライングディスク投げ
る参加者



ニュースポーツでハツラツ (10/20)

若狭地区身体障害者ニュースポーツ大会が三方グラウンドで行われ、若狭町のほか、美浜町、おおい町、高浜町の約 100 人の参加者らが、秋晴れの中で爽やかな汗を流しました。

大会では、グラウンドゴルフとフライングディスクの 2 種目が行われ、フライングディスクでは、輪に向かって上手に投げ入れていました。

参加者らは、敵味方関係なくお互いのプレーを応援し、ハツラツとしたプレーで交流しました。

【結 果】

グラウンドゴルフの部

優勝 若狭町 2 位 おおい町

フライングディスクの部 (個人)

優勝 森下 金四郎さん (美浜町)



言葉で伝える一行詩 (10/21)

若狭町が募集した一行詩コンクールの最終審査がパレア若狭で行われ、入賞作品が発表されました。

昨年までは「認知症一行詩」として募集されていましたが、今年 3 月の東日本大震災をきっかけに、人と人との絆について考えようと、新たに「人と人がつながる一行詩」の部門が加わりました。

応募総数は、2,979 通（認知症一行詩 1,248 通、人と人がつながる一行詩 1,731 通）で、この日、一次審査、二次審査を通過した入賞作品から、各部門の最優秀賞と優秀賞が発表されました。

最優秀賞と優秀賞の作品については、11 月 12 日に行われたハート & アートフェスタにて朗読および表彰されました。

なお、入賞作品をまとめた冊子が来春に発行される予定です。



▲入賞作品の講評をする大熊審査委員(右から 2 人目)

部 門		最 優 秀 賞 作 品	氏 名	住 所
認知症一行詩	小学生	わかる？わからない？どうでもいい！！ いてくれるだけでいい このままずっと・・・	加瀬 誠仁	茨城県
	中学生	今日五回目のおこづかい ありがとう 気持ちだけもらっておくよ	宮川 拓馬	若狭町
	一 般	子ども産みたいなあって ばあちゃん 80 歳やで！ でも 子育てしとる時が幸せやったんやなあ	難波 安津子	岡山県
人と人がつながる一行詩	小学生	「いってきます」「いってらっしゃい」「ただいま」「おかえり」 いつもの言葉が幸せです	川上 立城	若狭町
	中学生	防災訓練をして 久しぶりに見る近所のばあちゃん 元気にしてて良かったなあ	石井 雄斗	若狭町
	一 般	実家の近所のおばさんに会うたびに 「大きくなったね」と言われ続けて もう十五年	浅沼 秀俊	小浜市



◀旧丹後街道と旧若狭街道
の分岐を刻んだ道しるべ
(日笠)の横を歩く参加者ら



▼信主神社(三宅)前を歩く
参加者ら



歩いて鯖街道を知ろう (10/23)

熊川宿から小浜市までの鯖街道を歩く催しが行われました。

この催しは、熊川宿から鯖街道を歩いて、鯖街道や熊川宿の歴史などに関心を持ってもらうために熊川公民館が主催したものです。

昨年は、鯖街道の終点となる京都の出町商店街まで歩きましたが、今年は鯖街道の起点である小浜市の泉町商店街までの17.7kmを、遠足に合わせて参加した熊川小学校の児童16人と、熊川地区の住民26人が歩きました。

参加者らは、泉町商店街に到着すると「さば街道資料館」を見学し、鯖街道を歩いた達成感を味わっていました。



1年間の力作を発表 (10/29 ~ 30)

2011 若狭町文化祭が、パレア若狭や歴史文化館などで行われました。

文化祭では、文化協会の各団体や小中学生、一般の方の作品などが展示されたほか、2日目には、パレア若狭音楽ホールで民俗芸能や合唱などの舞台発表と、二胡奏者の野沢香苗さん(福井県出身)によるミニコンサートが行われました。

どの作品や発表も、日頃からの練習の成果が十分に発揮されており、来場者は感心して作品を眺めたり、舞台発表に盛んな拍手を送っていました。

来年の文化祭に向けて、あなたも何かに挑戦をしてみませんか。



◀歴史文化館に展
示された作品を
眺める来場者

▶方円流のお茶席
を楽しむ来場者



◀レインボーライン
を歩く参加者



▲参加者や観光客で賑わう
レインボーライン第1駐車場



レインボーラインを歩いたよ (10/31)

レインボーラインを歩くイベントが行われました。

このイベントは、大河ドラマ「江〜姫たちの戦国〜」にちなみ、普段は自動車専用道路のため歩くことができないレインボーラインを、お江ら浅井三姉妹に扮したスタッフと歩くもので、三方五湖広域観光協議会の主催で行われました。

当日は、あいにくの雨模様で、残念ながら三姉妹と一緒に歩くことはできませんでしたが、集まった約150人の参加者は、三方五湖や日本海の景色を眺めながら、それぞれのペースで往復約8kmの道を歩きました。



◀地元の写真を背景
に演奏する岬小学
校の児童



▲リズム良く演奏する野木小学校の
児童



ビッグステージ若狭 (11/4)

若狭町小・中学校音楽会がパレア若狭の音楽ホールで行われました。

音楽会は、町内の各小学校の代表と中学校の吹奏楽部が合唱や合奏を発表し、音楽に対する興味や理解を深める場として行われているものです。

この日の音楽会では、児童らが日頃から練習している合唱や合奏の成果を披露しました。

中には、地元の風景写真を背景に、「ふるさと」を演奏したり、「オペラ座の怪人」を演奏する前に舞台のワンシーンを演じたり、リズムカルに踊ったりと凝った演出も見られました。

児童らの力が入ったリズム良い演奏に、会場から大きな拍手が送られていました。



家庭の幸せが子どもの幸せ (11/5)

平成 23 年度若狭町青少年健全育成の集いが、パレア若狭で行われました。

集いでは、「家族の日のあり方や家族」をテーマとした作文コンクールの表彰と発表が行われたほか、アニメ番組「サザエさん」のマスオさん役などで知られる、声優の増岡弘さんの講演会が行われました。

増岡さんは、サザエさん一家を話題に取り上げて、「家庭を明るく、そして幸せにすることが、子どもたちの幸せにつながる」と話していました。

【啓発作文の金賞受賞者】

小学校低学年の部	竹村 魁渡さん (三宅小)
中学年の部	竹内 陽南さん (鳥羽小)
高学年の部	田中 晟擲さん (野木小)
中学校の部	中村 滯音さん (上中中)

▶ 作文を発表する入賞者

23年度若狭町青少年健全育成の集い

大きな夢をもち 心豊かでたくましい青少年の育成



▼ 身振り手振りを交え 楽しく講演する増岡さん



温かみが持ち味です (11/11)

福井県公民館連合会広報紙コンクールで熊川公民館が優秀賞に選ばれ、あわら市文化会館で行われた福井県公民館大会で表彰を受けました。

優秀賞の「鯖街道 熊川」は、紙面全体に漂う温かみが持ち味で、「ずうっと元気であってね」とお年寄りに呼びかける見出しなど、“ホッ”とする記事が評価されました。

また熊川公民館のほかにも、優良賞として西田公民館と三十三公民館、奨励賞に三宅公民館が受賞しました。

公民館だよりは、地域の情報が詰まった広報紙です。皆さんも、それぞれの公民館だよりを読んでみてください。



▲入賞した町内4公民館の館長と職員 (左から三十三公民館、熊川公民館、西田公民館、三宅公民館)

平成 23 年度

町功労者表彰

町の福祉や産業、自治などでまちづくりに尽力された方々が、11月3日に町観光ホテル水月花で若狭町功労者表彰を受けました。

今年度の受賞者は10人です。(年齢順に掲載)

文化功労



内藤 増之さん
(海士坂・78歳)

若狭町文化協会常任理事、同監事、若狭町俳句連盟副会長、福井県詩吟連盟詩吟審査委員、穂水流国民吟詠会詩吟大師範、同詩吟常任理事

産業功労



雨森 登さん
(市場・75歳)

旧上中商工会会長、福井県商工会連合会理事、わかさ東商工会副会長(現職)

産業功労



江戸 千代子さん
(横渡・73歳)

旧三方町農業委員会委員1期、若狭町農業委員会委員2期、福井県農業会議常任会議員

自治・福祉功労



深川 昇さん
(梅ヶ原・70歳)

旧三方町助役2期、社会福祉法人西田福祉会理事長(現職)

自治功労



河原 一夫さん
(向笠・70歳)

旧三方町議会議員1期、若狭町議会議員1期

文化・福祉功労



新田 ミチ子さん
(玉置・70歳)

旧上中町赤十字奉仕団委員長、旧上中町文化協会副会長、同監事、若狭町文化協会副会長、同顧問(現職)、若狭町民生児童委員1期

自治功労



井関 清さん
(安賀里・70歳)

旧上中町議会議員3期(議長、監査委員)

保健・福祉功労



大野 文子さん
(井崎・70歳)

旧三方町食生活改善推進委員会会長、若狭町食生活改善推進委員会会長、旧三方町赤十字奉仕団委員長、若狭町伝統文化保存協会理事(現職)

自治・産業功労



森下 幸一さん
(神子・70歳)

旧三方町議会議員2期(副議長)、三方民宿協議会会長、社団法人若狭三方五湖観光協会会長

産業功労



三木 宏明さん
(天徳寺・70歳)

若狭瓜割名水公園管理組合組合長、旧上中町監査委員、三宅地区土地改良理事長